

# デジタルカメラ商品撮影テクニック



株式会社通信技研

ネットで商品売るには、商品写真の善し悪しが売上に大きく関係します。魅力的な商品写真はそれだけで購買意欲を誘いますが、写真が悪ければ本当は良い商品でもなかなか売れません。

それは、商品を手にとって確認できないネット販売の宿命でもあります。

でも、良い写真を撮るにはちょっとしたコツがあります。高級なデジタル一眼カメラでなくても、コツさえ掴めば魅力的な商品写真が撮れるのです。

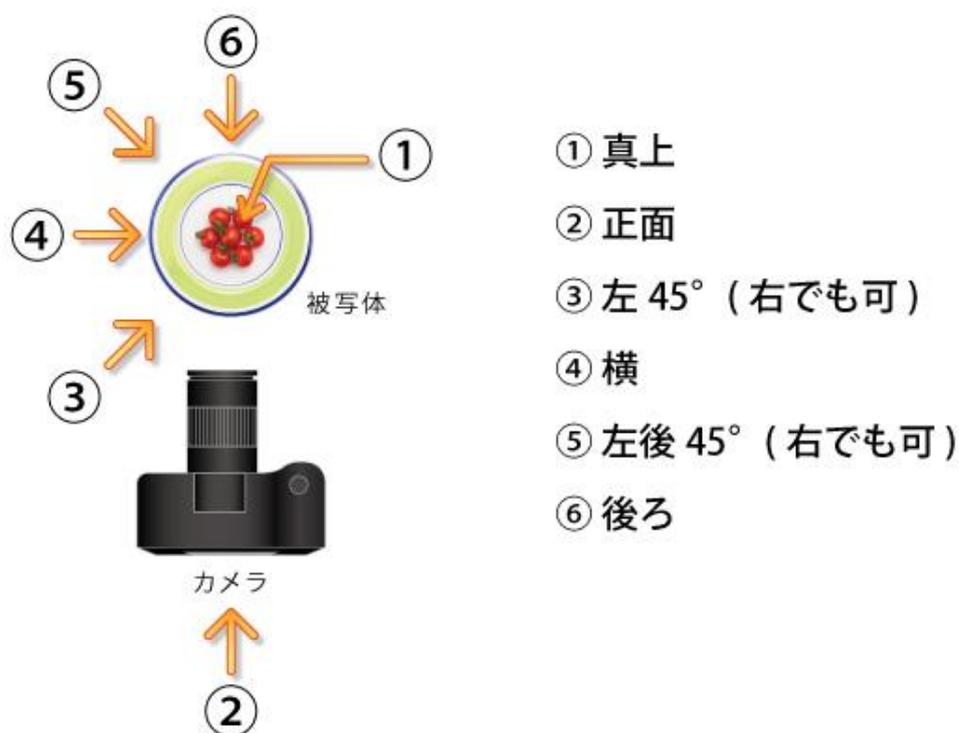
## 1. 重要なのは照明

良い商品写真を撮るのに一番大切なのは、高いカメラを買うことではなく、良い照明の環境をそろえることです。

もし、写真機材を買う予算が10万円あったとします。

カメラに3万円、照明機材に5万円、三脚に1万円、画像編集ソフトに1万円の割合で予算を使うのがベストバランスです。そのくらい照明が重要です。

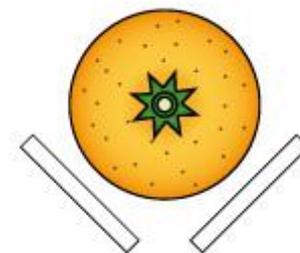
## 2. 光源（メインライト）の位置（影は一つ）



①真上



レフ板使用



レフ板の位置

②正面

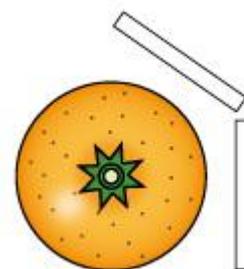


レフ板無し

③左 45 度



レフ板使用

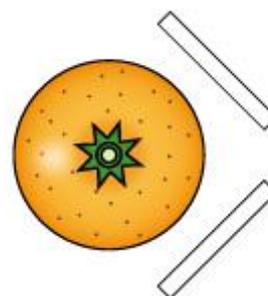


レフ板の位置

④真横



レフ板使用

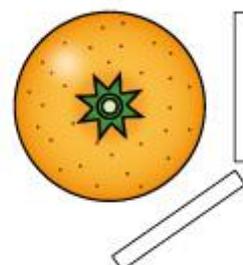


レフ板の位置

⑤左後 45 度



レフ板使用

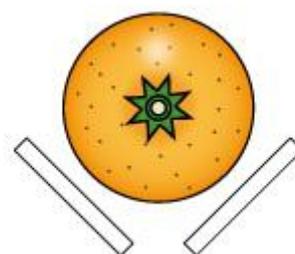


レフ板の位置

⑥後ろ



レフ板使用



レフ板の位置

### 3. レフ板（白いボードか白紙）使用（影を薄くするため）

レフ板は、影を薄くするために使用しますが、特別な機材は必要とせず、「ダンボールにコピー用紙を貼る」程度で代替できます。

光を反射できる素材なら、とりあえず何でも代用できますので、白いノートを開いて代用する手法もあります。

また、テカリ防止はデフイーザーを使います。（トレーシングペーパーで代用可）



レフ板無し



レフ板使用

### 4. 商品撮影時はなるべく望遠レンズで撮る（遠近感を無くすため）

被写体に近づいて意図的に迫力ある写真にする場合もあります（料理の写真等）が、遠近感を無くすのが基本です。



望遠レンズ使用



広角レンズ使用

## 5. 三脚とセルフタイマー使用（ブレ防止のため）

夜間、蛍光灯の照明を使って撮影を行う機会が多いと思いますが、照度的には暗くなります。そうすると手持ち撮影ではブレますので、三脚に固定してレリーズケーブル（遠隔でのシャッター）を使うか、セルフタイマーを使ってシャッターを切るようにします。



三脚とセルフタイマー使用



セルフタイマーなし

## 6. 電灯光と他の光（屋内光、蛍光灯）はミックスしない

二つの光源で一緒に撮ると被写体が色をかぶり、修正できないため、どちらか一方（蛍光灯なら蛍光灯のみ）の光源を使用し、光はミックスしないようにします。また、ホワイトバランスを使用する光の種類に合わせましょう。



蛍光灯ホワイトバランスあり



電灯光ホワイトバランスなし

## 7. 商品単体の時は色付きの背景・紙はなるべく使用しない

イメージ写真の場合は除き、商品撮影では色付き背景はできるだけ使用しないようにします。グラデーションペーパーや、無ければ梱包用ラッピングペーパー、100円ショップで売っているフェルト等で代用します。



白バック



赤バック

※ラベルの色が赤かぶりで忠実ではない

## 8. 白バックの時はプラス補正、黒バックの時はマイナス補正

自動露出は白バックでそのまま撮影すると露出不足になり、白バックがグレーになってしまいます。



自動露出



+1 段補正

## 9. 被写体の大きいものは曇りの日に表で撮る

屋内では、上下左右均一な光が得られません。大きな被写体は曇りの日に屋外で撮るようにします。

**※著作権について※**

当資料は自由に配布して構いませんが著作権は放棄しておりません。

配布の際は著作権表示を削除しないように願います。

上記の条件を守って頂けない場合は最終的には法的手段を取ることとなり、その後の公開に支障が出てしまいます。

呉々もルールを守ったご利用をお願い致します。

**【デジタルカメラ商品撮影テクニック】**

Ver2.0 2013年04月07日

Ver1.0 2013年01月17日

著者： 株式会社通信技研 遠藤裕司

作成協力：杉山伸一